

特別掲載

日経奨学会卒業生
声優

江口 拓也さん

スペシャル
インタビュー

公式SNS・YouTube更新中！

奨学生の仕事や生活などリアルな姿を写真や動画で紹介しています

X



Instagram



YouTube



#頑張れ日経奨学生

お問い合わせ

日本経済新聞育英奨学会

日本経済新聞販売協同組合

〒104-0033 東京都中央区新川1-27-8 新川大原ビル6階
フリーダイヤル(全国無料) ☎0120-00-5725

NIKKEI

日本経済新聞社 東京本社

〒100-8066 東京都千代田区大手町1-3-7
TEL.03-3270-0251 (代)

日経育英奨学会のホームページにアクセス!!

日経奨学会 🔍



日本経済新聞 育英奨学会 オフィシャルパンフレット2026

表紙イラスト：NSN 大岡山 大瀧 徹さん

一直線に夢を追いかける 君の本気を応援したい！

将来も安心できる「返済不要」の奨学金制度です。

夢や目標に近づくために、大学や専門学校で学びたい。

でも経済的に難しい…そんな悩みを持つ人は多いもの。

日経育英奨学制度は、若者たちが本気で学びたい思いに応える制度です。

自分の力で働いて、学びの機会を自ら勝ち取る！

そんな自立の精神が、夢の実現へ、さらには未来へとつながっていきます。

日経育英奨学制度は、「返済不要の奨学金」「集金業務なしで4週6休」という奨学生本位の待遇を用意しているので、安心して学業と仕事に集中できます。

夢の実現に向けて歩み始めようとするあなたのチャレンジを

日経育英奨学制度がしっかりとサポートします。

選ぶなら日経 6つのポイント

在学中の生活費や卒業後の学費返済の心配もありません。

POINT 1 学費は**無利息**で借りることができ、**卒業時に返済免除***となります。
※学費の借入入れが免除額を超える場合は、卒業時に一括返済となります。 P3、4参照

POINT 3 **集金業務やセールスはなく、休日は4週6休。**
プライベートも充実できます。

POINT 5 **就職活動をバックアップ。**
就職推薦状の発行など充実のサポート。
P12参照

POINT 2 **完全個室を無料**で用意。
全室にエアコンまたはクーラー完備。
また全店(NSN)にシャワールーム・シャワートイレ完備。

POINT 4 東京地区で**一番奨学生が多く、女子学生**もたくさん活躍しています。

POINT 6 **声優やお笑い芸人志望**の方も**多数在籍**。
みなさんの「夢」を応援します！



CONTENTS

選ぶなら日経 6つのポイント	1	インタビュー 表紙作成者 大瀧 徹さん	8
待遇と仕事	2	特別インタビュー 江口 拓也さん	9
奨学金制度の仕組み	3	奨学金の比較／保護者の皆様へ	11
奨学生の生活	5	奨学生と就職	12
一歩先を行く先輩ヘインタビュー	7	日本経済新聞と日経育英奨学会	13
		入会の手続き	14

「集金なし、4週6休」でプライベートも充実！ だから先輩たちはNIKKEIを選んだ!!

学費や生活費に不安をもつことがないから、「学び」や「遊び」の時間も充実させられます。

日経奨学生なら
貯金もできて、
生活費も安く
すみます。

都内で一人暮らしをする場合		
収入	親からの仕送り＋アルバイト	
支出	家賃	60,000円
	食費(朝・夕)	30,000円
	昼食	15,000円
	水道光熱費	9,000円
	電話・ネット代	10,000円
	交友費	30,000円
	貯金	0円
支出合計		154,000円

日経育英奨学生の場合		
収入	給与 153,600円	
支出	家賃	0円
	① 食費(朝・夕)	29,000円
	昼食	15,000円
	② 水道光熱費	5,000円
	③ 電話・ネット代	10,000円
	交友費	30,000円
	④ 貯金	64,600円
支出合計		153,600円

①～④は個人によって差があります。※水道光熱費は自己負担となり、店舗により多少異なります。所得税、国民健康保険料等は自己負担です。

日経育英奨学生は毎月の給与だけで十分に生活でき、貯金することも可能です。

待 遇		
給 与 月 153,600円以上 住 居 全NSN完全個室、部屋代は無料です。しかも、全NSNにシャワールーム、シャワートイレ、全室にエアコンまたはクーラーが完備されています。 ※室内は火気厳禁です。 食 事 朝食と夕食は各NSNで用意します。食費は29,000円以内(1か月分・実費精算)です。 ※店舗により提供の有無、方法に差異があります。	休 日 4週6休制が全NSNで実施されています。休みは授業のスケジュールなどの都合に合わせてNSN内で調整して決定します。 賞 与 年2回、7月と12月に支給します。 各種保険 労災保険、日経専売所従業員厚生福祉会※に全NSNが加入しています。雇用保険・社会保険の加入は、法令に則って配属店が対応します。 定期健康診断(各店実施) 健康的な奨学生生活を過ごすために、春と秋に定期健康診断を実施します。	有給休暇 初年度は(入店6か月後)10日、2年目11日、3年目12日、4年目14日となります。(労働基準法準拠) カウンセリング 仕事や生活上の悩みはNSNに相談してください。 その他 ①交通費 通学定期代が1か月5,000円以上の場合、差額をNSNより補助します。ただし、補助額は1か月5,000円を限度とします。 ②服装 ユニフォーム、レインウェアを全奨学生に貸与します。 ③赴任旅費の支給 入店時の片道交通費を支給します。(金額は奨学会の規定による。)

※NSN…日本経済新聞専売所の呼称です。

※日経専売所従業員厚生福祉会…日本経済新聞社とNSNが専売所従業員のために共同事業として運営しており、事故やケガでの通院や入院した時など福利厚生全般にわたって保障されます。

仕 事

配 達	主にバイク(一部自転車)を利用し、受け持ち区域の朝・夕刊を配達します。1日の仕事時間は、朝夕刊の配達と付随業務を合わせて5時間程度です。配達は先輩が親切に指導します。日経は読者の入れ替わりが少ないため、配達の順路はすぐに覚えられます。(配達時間帯は地域によって異なる場合があります) ※配達で使用するバイク・自転車は、NSNで用意します。 ※日本経済新聞および各種取り扱い紙の配達があります。
付随業務	PR宣伝物の配布や折込広告の組込など、配達に関連する業務をお願いしています。

日経は集金業務がありません。
セールスの強制は一切ありません。

日経奨学生に**集金業務はありませんが、特に希望される方は、別途手当てが支給されます。**



学費は全額無利息で貸与！ しかも免除額内であれば 全額返済不要！

4年制コース	3年制コース	2年制コース	1年制コース	進学支援コース
4年制大学生 4年制の専門・各種学校生	3年制の専門・各種学校生 大学2年生より入会する場合 ※初年度は1年制コース、2年目以降は2年制コースを適用します。	2年制の専門・各種学校生 大学の1・2年次のみ利用する場合	1年制の学校 予備校生 1年制の専門・各種学校生 通信制大学生	独学生コース 学費を借りないで 自分で勉強する場合
返済免除額 450万円	返済免除額 320万円	返済免除額 220万円	返済免除額 100万円	1年間勤務することで 報奨金60万円
●卒業までの貸与学費が450万円を超えた場合、その差額を卒業時に一括返済していただきます。	●卒業までの貸与学費が320万円を超えた場合、その差額を卒業時に一括返済していただきます。	●卒業までの貸与学費が220万円を超えた場合、その差額を卒業時に一括返済していただきます。	●卒業までの貸与学費が100万円を超えた場合、その差額を卒業時に一括返済していただきます。	●学費を借りない場合、コース修了時に60万円を支給します。
特典 卒業までの貸与学費が240万円未満の場合、240万円との差額を報奨金として支給します。	特典 卒業までの貸与学費が180万円未満の場合、180万円との差額を報奨金として支給します。	特典 卒業までの貸与学費が120万円未満の場合、120万円との差額を報奨金として支給します。	特典 卒業までの貸与学費が60万円未満の場合、60万円との差額を報奨金として支給します。	特典 1年経過後、所長の了承を得ることで、保証能力のある保証人なしで次年度より進学が可能となります。

必要な学費が返済免除額を超える場合でも、無利息でお貸しします。
 ただし、超過額についてはコース修了時に一括返済となります。

途中退会の場合

コースを修了できず途中退会となった場合、登録したコースの在籍年数に応じて、右記の奨学金の返済を免除します。免除額を超えて貸与した金額は、退会時に全額一括返済していただきます。

※奨学期間は4月1日～翌年3月末日までを1年とし、免除額を算定します。

1年未満で退会の場合	免除額	0万円
満1年以上在籍して退会の場合	免除額	60万円
満2年以上在籍して退会の場合	免除額	120万円
満3年以上在籍して退会の場合	免除額	180万円

2年制以上の学校に入学し、継続して在籍する場合

入学祝金10万円進呈

1年制コースを修了した方が、他の2年制以上の学校に入学し、引き続き育英奨学生（4年制・3年制・2年制）として継続在籍する場合は、入学祝金10万円を進呈します。

進学支援コースイメージ

〈初年度〉
仕事に集中

1年後
所長の承の下

報奨金
60万円
を得て

〈2年次以降〉
2年制コースなどへ再登録
奨学金を得て進学できる！

※ご利用は保証能力のある保証人を立てることができない方に限定しております。

奨学金貸与イメージ

例 日経 太郎くん

2年制コースを利用し
専門学校へ入学

学費 トータル250万円
(1年目:130万円)
(2年目:120万円)

1 入会手続き時
 学校からの請求金額に応じ、1年目の学費を貸与します。

1年目学費を貸与
130万円

奨学会 日経くん

2 進級時
 学校からの請求金額に応じ、2年目の学費を貸与します。

2年目学費を貸与
120万円

奨学会 日経くん

3 コース修了時
 貸与した学費のうち、登録したコースに応じた返済免除額が返済不要となります。返済免除額を超えて貸与している額があれば一括返済していただきます。

コースに応じた返済免除額が返済不要に
 220万円返済不要
 返済免除額を超えて借りた額を一括返済
 30万円 (250万円-220万円) を一括返済

奨学会 日経くん





「これ以上親に負担をかけたくない。」 その思いから新聞奨学生の道へ

アットホームな雰囲気の特売所で かけがえのない仲間ができた

「新聞奨学生になろう。」高校の早い段階で決めていました。学生時代に新聞奨学生をしていた父親の影響です。私立の高校に通わせてもらっていたので、これ以上両親に経済的な負担をかけないように自分で働きながら大学に行こうと思っていたんです。父は集金業務もしていましたが、学業との両立にとても苦労したとか。だから、配達に専念できる日経育英奨学会を選びました。あらかじめ新聞奨学生について知っていたからか、働き始めてから戸惑ったことはほとんどありませんでした。元々道を覚えるのが得意なので配達業務も割と早く慣れましたし、不安だった早起きも毎日続いていると自然に体が順応してくるものです。当初は料理や洗濯を負担に思ったこともありましたが、いつも何も言わずしてくれていた母のありがたさを理解できるようになったのも新聞奨学生としての日々があったからです。ただ、僕は高校まで野球部で毎日練習に励んでいたのも、「新聞は紙だからそれほど重くはない」と少し甘く見ていました。300部近く束ねると流石に重い！配達中に転んでバイクに載せた新聞を地面にばら撒いてしまったときは凹みました。でも、所属する特売所には同期が6人もいるので、「今日こんなことがあったんだよ」と話せば大抵のことは笑って忘れられるんですよ。一年中、同じ屋根の下にいる特売所の仲間は、家族とも友達とも違う…とても近い存在。お正月にはお雑煮を食べたり、ゲームしたりと、すごくアットホームな雰囲気で過ごすことができて、改めてここで働けてよかったと思いました。同期の面々は、声優や楽器

の修理師など僕とは全く違う道を志しています。そんな仲間たちの夢への思いの強さにも刺激を受けています。

仕事をやり遂げる 責任感を持てるように

僕は高校時代まで野球に打ち込んでいたので、アルバイトの経験はありませんでした。だから、新聞奨学生になって初めて働くことを経験しました。日経の配達を楽しみに待ってくださる人がいると責任感を感じますし、読者の方から「ありがとう」と言ってもらえると嬉しくて力になります。毎日の配達により新聞が身近になったことで、将来は日本経済新聞社で営業の仕事をするという夢もできました。何より、日経なら自信を持って人に薦められるからです。今後は、就職のことを見据えて新聞をもっと読み込むのが課題です。そして今は、就職の前にまず大学生活をもっともっと充実させたい。配達の隙間時間を無駄にせず勉強するなど、時間を有効に使えば大学の友人と遊ぶ時間も十分に作れます。今は、友人たちとカフェで集まって何気ないことを話すのも楽しい時間です。もちろん学業も頑張っています。両親の影響もあり僕は子供の頃からビートルズやクイーンのCDを聞いていたのも、外国の文化や文学に興味がありました。また、実家の川口市は外国人の住民が多いことで知られる街。そんな背景もあって、海外に興味を持つようになったのかもしれませんが。大学の講義を受ける中で、ずっと関心のあった移民問題に自分なりの結論を出せたらと思うようになりました。このテーマをベースに残りの大学生活、ゼミや卒論など学びを深化させていきたいです。

とうめ しょういち
當銘 昇一さん
(NSN 三軒茶屋)

駒澤大学
文学部英米文学科

PROFILE

- ①新聞奨学生になった理由 ②日経を選んだポイント
③日経に決めてよかったこと ④将来の夢・目標

①私立の高校に通わせてもらっていたので、両親の負担を少しでも軽減できたらと思った。
②父親が新聞奨学生をしていたときに、集金や営業の業務に追われて学業との両立が難しかったと聞いていた。日経ならば、配達に専念できるから選んだ。③日経新聞の特売所は学生同士の距離が近く、お互いの学校の話などを聞いて視野が広がった。④日本経済新聞社で働きたい！

2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 1 2

配達準備～ 朝刊配達	仮眠など	学校	昼食など	配達準備～ 夕刊配達	夕食、勉強、自由時間	就寝
---------------	------	----	------	---------------	------------	----

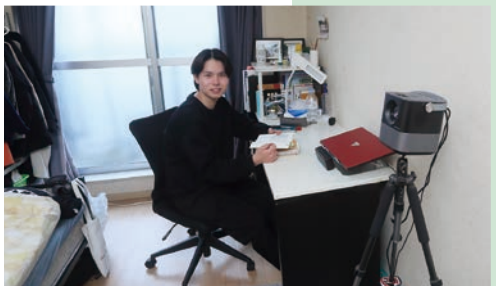
當銘さんのある1日



NSN 三軒茶屋の小島所長と



販売店の仲間と



一歩先を行く先輩ヘインタビュー



NSN 品川の東海林所長と

柿崎 春瑠華さん かきざき はるか (NSN 品川)

代々木アニメーション学院 声優・エンターテイナー学部 声優タレント科 福岡県出身

夢への近道になると考えて新聞奨学生になろうと決心

鍵っ子だった子供の頃、母が用意してくれたアニメのDVDをよく観ていました。以来アニメが好きになり、将来は大好きなアニメに関わる仕事がしたいと思うようになりました。当時、夢中になった作品は『ワンピース』。何度観ても泣けるシーンがあるのですが、漫画を読むよりアニメを見るとより一層感動するのはなぜだろうと。考えてみると、声優のセリフの発し方や感情表現に惹かれているんだと気づき、声優の仕事に本格的に興味を持ちました。ただ、声優は狭き門。不安定な職業でもあります。母子家庭で母は私のことをとても心配してくれているので、まず専門的な勉強ができる学校に入り、卒業後はプロダクションに所属し、こういう声優の仕事をしたい、というように将来の展望を説明。私の覚悟を知って、挑戦を応援してくれています。

新聞奨学生の制度は、代々木アニメーション学院のオープンキャンパスに参加

した際に知りました。ローンを組むと卒業後の返済が大変。アルバイトも考えましたが、生活リズムが安定しない。その点、働きながら学ぶことができ、卒業後に進路に集中できる新聞奨学生は夢への一番近道なんじゃないかと思いました。

朝早く起きられるのか、学業との両立は可能なのか、もちろん不安もありました。でも悩んでいてもしょうがない。だから勇気を持って一歩踏み出しました。

また、初年度利用した進学支援コースでの1年間も良い準備期間になりました。



学業と仕事の両立が自信になり自身の成長を実感できている

代アニの授業と日々の配達。いざ両立生活が始まると体力的に大変。学校にプライベート、自主練など、スケジュールはいつもつめつめの状態です。「夢を叶えるために頑張る」という強い意志がなければ続けることは難しい、というのが正直な感想ですね。私の場合は、学業も仕事もやり切った、声優となる“その先の未来”を展望するのが原動力になっています。

大変な日々の中にも、嬉しいこともあります。新聞配達という仕事は、一人黙々と仕事をするイメージを持っていましたが、特に夕刊を配る時間は読者の方と触れ合う機会も。お礼を言われたり、差し入れを



くださったりと、予想以上にコミュニケーションもある仕事です。それに、慣れたら趣味の時間も取れるようになりました。私は日本の文化や歴史が好きなので、時間ができたら神社巡りをして気分転換しています。

また、覚悟を持って新聞奨学生を続けてきたことで、精神的にタフになったのも嬉しいです。私は元々自信がなくて、自分の意見をなかなか言えない性格でした。でも、演技をしていると、外面だけでなく内面まで自分の全てを出す機会も。代アニでの授業を通してそんな自己と向き合うと同時に、人の良い面を取り入れようと他者の観察や分析もしてきました。変わろうと努力してきたことで、先生方からも変わったねと言われるようになりました。

加えて、進学支援コースを経て自分自身の力で学校に入学できた自信。そして、学業と仕事を両立しながら夢に向き合っているという自信。そんな経験が積み重なって成長でき、自分の芯ができた気がしています。そうして培った自分の芯を武器にして、声の仕事はもちろん舞台にも立てる、オールマイティに活躍できる存在になれるよう突き進んでいこうと思っています。



夢に向かう強い気持ちが原動力に

本誌2026年度パンフレットの表紙を飾る「イラストコンテスト」でグランプリに輝いた大瀧徹さん。見る人が明るい気持ちになれる作品を目指して、配色や構図に工夫を凝らしたのだそうです。“人の心を動かすイラストレーター”になる夢を目指して仕事と学業に励む大瀧さんに、受賞の喜びや作品への思い、新聞奨学生になってよかったことなどを聞きました。



イラストコンテストグランプリ

おおはま とおる

大瀧 徹さん

(NSN 大岡山)

代々木アニメーション学院
クリエイター学部 イラスト科
愛知県出身



見た人の気持ちが明るくなるそんな作品を目指した

—— グランプリ受賞おめでとうございます。受賞の知らせを聞いたご感想は？

素直にすごく嬉しいです。去年も同じコンテストに参加したのですが、準グランプリで悔しい思いをしたので、今回グランプリを受賞できて本当に良かったです。専売所の所長さんや学生の仲間からも祝福されてありがたかったです。

—— 今回の作品はどのような気持ちで作られたのですか？

見た人が明るい気持ちになれるようなイラストを目指して、配色や構図を工夫しました。苦労したのは、空間表現。キャラクターを上から見下ろすようなアングルにしたので、いつも配達に使っているスクーターを見下ろす写真を撮り、それを参考にしながら構図を作成しました。

—— 大瀧さんは、いつからイラストを描けるようになったのですか？

小さい頃から美術の授業などで絵を描くのが好きだったのですが、本格的に趣味としてイラストを描き始めたのは高校1年生ぐらいの時です。

—— イラストレーターの道を志すきっかけを教えてください。

大学生の時に、イラストの制作依頼ができるサイトに登録していたんです。その頃に何度か制作依頼を引き受けたのですが、依頼者からすごく褒めてもらったり、喜ん

でもらえたりしたことがあり、イラストを描くことを仕事にしたいと思うようになりました。

—— 独学でイラストを制作されていた大瀧さん。代アニでの学びを経てどのように成長できたと思いますか？

代アニでは、プロとして現役で活躍する講師の方に作品を添削してもらえます。自分の作品のどこが良くてどこが悪いのか、客観的に指摘していただく機会によって、さらなるレベルアップができたと思います。高校生の頃、自分なりに上手く描けたと思う作品をSNSに投稿していたんですが、今見返すとこれを投稿したんだ！と恥ずかしくなることも。代アニで学んだことで、大きく成長できたんだと思います。

限られた時間で作品を仕上げる時間の管理が上手くなった

—— 新聞奨学生になろうと決めた理由を教えてください。

僕は一度大学に入学してから、イラストの道に進む夢が諦めきれず、専門的な勉強ができる学校への進学を決めました。進路で悩んでいることを知っていた両親は反対しませんでした。イラストの道に進むなら「自分の力で行ってね」と。学校を調べるうち、代アニでは多くの学生が新聞奨学生制度を使っているのを知って、この制度を使えば、自分の力で学校に通えると思いました。また、僕は実家が名古屋

なので、上京してすぐに住み込みで働くことができるのも魅力でした。

—— 新聞奨学生になって良かったと思うことはありますか？

絵を描く人は一旦描き始めると、ずっと部屋に籠ってしまう人が多いと思うのですが、僕もそのタイプです。配達をすると体を動かすので、運動不足にならない。健康面の利点があります。また、時間管理も上手くなったと思います。イラスト業界は納期がとても重要なので、限られた時間の中で最大限のクオリティを目指す力が付いたのは大きいですね。

—— 今後の進路についてどのように考えていますか？

将来的には、人の心を動かせるイラストレーターを目標にしています。そのためにまずはイラストが実際の現場でどのように使われているか理解するために、ゲーム会社やイラスト制作会社への就職を目指しています。そこで実際の現場を学び、技術を向上させ、イラストレーターとして成長を続けていきたいと思っています。

—— 新聞奨学生の制度利用を検討する未来の後輩にメッセージをお願いします。

自分の力で夢や目標を叶えたいと思っている人にとって、新聞奨学生の制度はとても良い制度だと思います。最初の1カ月ぐらいいは体力的にもきついですが、慣れたら日常生活に余裕も出てきます。大変だからこそ、諦めずに自分の夢に向かって頑張っていると実感できますよ。



準グランプリ

いしのみな

石野 実那さん

(NSN 小石川)

代々木アニメーション学院
アニメーション学部 アニメーター科
大分県出身



準グランプリ

えざわ あいりん

江澤 愛鈴さん

(NSN 西麻布)

代々木アニメーション学院
アニメーション学部 アニメーター科
静岡県出身



新聞奨学生を経験したから、声優としての今がある

—— 声優を志すきっかけを教えてください。

もともとアニメや漫画、ゲームが大好きで、高校生で進路を考えた時に、自分の好きなものに関わる仕事がしたいなと思っていました。その時に、たまたま聞いたラジオ番組で、声優志望の専門学校生が出るコーナーがあって、自分より1～3歳くらい上の人たちが生き生きと活躍している姿を見て、衝撃を受けました。そこで、自分もその専門学校に入って声優を目指すことに決めました。

—— 新聞奨学会を利用しようと思った理由を教えてください。

単純にお金がない中で、それでも目指したい夢があったからです。僕が住んでいたのは茨城県の田舎の方だったので、そこから東京まで通う手立てもなかったし、一人暮らしをするお金もありませんでした。どうしようかと思っていた時に、新聞奨学生制度のことを知って、これなら夢を追いかける！と思いました。日経奨学会を選んだのは、自分が行きたいと思っていた専門学校の奨学金制度が日経奨学会だったからです。

また、僕は朝が弱いので、ある意味それを克服するためにも、挑戦するならそれぐらい高いハードルを設けた方が、より夢へのエネルギーになると思い、日経の新聞奨学制度を利用することに決めました。

—— 奨学生期間で一番の思い出を教えてください。

いっぱいありますね～。思い出だけです。楽しかったこともあれば、大変だったことも、色々ありました。声優になって15年くらい経つのですが、その中の思い出よりも、あの頃の思い出の方がけっこう強烈に残っています。

入店してはじめての2週間は、仕事と生活に慣れるための訓練的期間でした。でもその頃はやっぱり、毎日朝早く起きるという習慣がなかったので、起きるだけでも大変でした。仕事も当然わからないことだらけで、最初の1週間はこれやりながら学校に通うことができるのだろうかという、絶望に近い不安に襲われました。でもその時に、先輩たちが本当に優しくしてくれて、僕が失敗しても「自分も最初はそうだったよ」ってフォローしてくれたんです。同期の仲間たちと励まし合えたことも大きかったですね。それぞれ学科は違うけど、将来の目標を

しっかり持った人たちと出会えて、夢を語り合って、苦楽を共にできたことが僕の中で一番の思い出です。

—— 学業と仕事の両立は大変だったのではないですか？

そうですね。自分の中でふるいにかけてられるじゃないですけども、そういった瞬間はありました。やっぱり人間なので、疲れがたまってくると、朝刊を配り終わったら授業をサボって寝て、次の夕刊に備えた方が楽だということもありました。でも僕はそこで、負けず嫌いなみたいな気持ちが出てきて、歯を食いしばって毎日学校に通いました。そのエネルギーが後々の自分の力になったし、その経験があったからこそ、卒業してからどんなことがあっても、あの日々を乗り越えたことが自信となって頑張れるんです。「心を鍛えてもらった」という時間になったなと思っています。

—— 両立のコツがあれば教えてください。

人それぞれだと思いますが、僕自身は朝に弱いという自負があったので、それをどう乗り越えるかが自分の中ではテーマでした。

例えば、電気を消しちゃうとぐっすり寝てしまうから、部屋の明かりをつけたまま寝るとか、爆音の目覚ましを2個買っておくとか(笑)。人によっては、真つ暗にして静かな中でリラックスする時間を作ってメリハリをつける方もいましたが、僕は荒療治的な方法で乗り越えていました。睡眠時間は4時間で、深く寝ない、ということに決めていました。

専門学校では、放課後もクラスみんなで集まって練習したり、次の授業の準備をしたりしていました。でも僕は夕刊を配らないといけなくて、一旦抜けるんですよ。それで配り終わったら、また学校に戻って、残り稽古に参加したりしていました。その後、みんなでレストランに行って、終電くらいまで練習やおしゃべりをしていて、僕も極力参加したいと思っていたので、だいたい9:30くらいまで付き合っ、寮に帰って寝るのが夜の10:30くらい。そこから4時間寝て、2:30に起きて、また朝刊を配るんです。すごくハードな毎日だったけど、そういう日々を送っていたら、意外と体が慣れてきて、むしろそれくらいが体調が良いな、と思っていました。

—— 新聞奨学生をしていて良かったことを教えてください。

新聞配達って、代わりがないんですよ。配る区域が決まっていて、自分が休みの日は社員さんが自分の区域を配ってくれているんです。社員さんは何区域か担当していて、僕が出動している時は、違う区域を配っています。だから、誰かが急に休むと、他の方の負担が増えて迷惑がかかってしまうんです。つまり、自分が仕事を休んだら、代わりに配れる人がいないんです。どうしようもない時には、「ごめん、今日出で」みたいな感じで助け合いながらうまく調整していくのですが、基本的に代わりがない仕事です。自分が出動しないと、読者の方の手に新聞が届かない。つまり、その仕事は成立しないという厳しさがあります。だから自分は日々どういう風に生活をして、体調管理をするか、スケジュール管理をして、決められた時間に仕事をするか、ミスなくこなすか、ということを考えられるようになりました。社会人としての責任感や仕事の組み立て方みたいなものを自然と習得できていたみたいで、それが一番の良かったことだなんて思います。

—— 日経奨学会の利用を検討する後輩へメッセージをお願いします。

何かを始める時って、ものすごいエネルギーが必要で。地方に住んでいる人が上京する場合は、住むところや家財道具をそろえたら相当なお金もかかります。それを考えたら、新聞奨学生制度は住むところも用意してくれて、本当にありがたい。この制度にものすごく助けられました。

僕は何かを諦める理由に、お金があってほしくないと思うんです。エネルギーがあるなら、可能性があるなら、大変かもしれないけど、挑戦してほしい。自分に向いているかどうかなんて、やってみないとわからないことだし、とりえず挑戦してみて、それから自分に向いているかをゆっくり考えればいいと思う。

僕はこの新聞奨学生制度に賭けてみたいと思ったから、一步を踏み出すことができました。歯を食いしばって学業と仕事を両立させたことで、強い精神力も手に入れました。そして今、声優になるという夢を叶えて、有名作品に多数出演するまでになりました。あの時、夢を諦めなくて本当に良かったと思います。だからもし今、迷っている人がいたら、ぜひ挑戦してみてください。

輝く先輩に聞く！

えぐちたくや 江口 拓也さん特別インタビュー

国民的人気TVアニメで主役を務めるなどデビュー以来第一線で活躍を続ける人気声優の江口拓也さんも日経奨学会の卒業生の一人です。学校生活と仕事の両立を2年間やり遂げたことが声優としての今に繋がると話す江口さんに、夢を叶えようと新聞奨学生として奮闘していた当時、どのように過ごし、何を思っていたか語っていただきました。



他の奨学金との違いは？



ズバリ！

卒業後の返済が不要であること！

進学時にたくさんの方が利用している国の奨学金（日本学生支援機構）。これらは卒業してから返済が始まり、完全返済まで約20年もかかります。返済不能で自己破産に陥ってしまうケースもあり、社会問題にもなっています。対して「日経」の新聞奨学制度なら、**学費は全額貸与**、しかも限度額内であればコース修了時に**返済不要**になるため、在学中はもちろん、卒業後に経済的な不安を感じることもありません。

在学中	卒業後
学業と仕事の両立 新聞奨学生	学費は返済不要 余裕を持って社会人へ
学業やアルバイト 国の貸与型奨学金 (日本学生支援機構)	毎月の返済開始 完全返済は20年後？

保護者の皆様へ

日本経済新聞育英奨学会のパンフレットをご覧ください。

発足後、半世紀以上の歴史を持つ日経育英奨学会では、学生さんに安心して進学していただけるように、下記の制度をご用意しております。

①奨学金は無利息で貸与され、コース修了時に返済免除となります。

※奨学金の借入れが免除額を超える場合はコース修了時に一括返済となります。

②部屋はすべて個室で無料です。

③給与は毎月固定給で、生活に困ることはありません。

他の奨学金制度や教育ローンは、原則在学中または卒業後に返済が必要となります。

数百万円の返済金を抱えて社会に出るかたちになりますので、昨今の授業料高騰と世界的情勢による非正

規社員の増加等で奨学金を返還する余裕がなくなり、結果的に返済不能となるケースも多く、社会問題になりつつあります。

※延滞者13万3,000人。訴訟約3,700件。(R6.3 学生支援機構)

日経育英奨学制度は、新聞配達業務をしていただくことで奨学金の返済を免除しますので、卒業後に数十年をかけて返済する必要はありません。

加えて、部屋代無料、給与は固定給など、在学中も金銭面で不安を感じることなく生活ができます。

進学に向けて、お金の問題は重要です。さまざまな奨学金制度、教育ローンがありますが、学生さんにとって在学中そして卒業後を見据えて最良の制度をご選択いただけますようお願い申し上げます。

日本経済新聞育英奨学会

日経育英奨学会は皆さんの「就職」も強力にサポートします。

日経の奨学生は就業意識が高く、勤勉であることは日々の仕事を通じて実証済みです。しかし、学業と仕事を両立させながら、限られた時間内で就職活動に関する知識や情報を入手して、就活もしなければならないことに不安を感じることもあるかもしれません。そこで、日経奨学会では皆さんの就活と就職を強力にサポートする体制を備えています。

2025年3月卒業予定の大学生
(4年制コース) 就職率

※就職率=4年制コース登録者のうち、
就職決定者/就職希望者数となります。
※2025年2月末日時点の数字となります。



日本経済新聞社主導

奨学生限定就職サポート

夢の実現のため日本経済新聞社が強力にバックアップします！

奨学生の皆さんが日々配達している日本経済新聞。その発行元である日本経済新聞社も奨学生の皆さんの就職を強力にバックアップしています。日本経済新聞社は大学生向けの就職サポートセミナーを各地で実施しており、多くの内定者を輩出してきました。このノウハウを最大限に活かし、マンツーマンで就職活動を支援します。これは日経奨学生だけのメリットです。

- Point 1 ES・面接対策
- Point 2 ビジネスマナー指導
- Point 3 日経ニュース、経営分析に基づいた企業研究
- Point 4 志望企業に関連したニュース解説
- Point 5 マンツーマンの手厚いサポート

日経育英奨学会理事長の

推薦状を
発行します。

推薦状

〇〇年〇月〇日

東京都中央区新川一丁目二七―八

日本経済新聞育英奨学会

理事長 丸山 修

株式会社 〇〇〇

代表取締役社長 〇〇〇 様

皆さんの就活にあたり希望者には「学業と仕事を両立し、奨学生生活を成し遂げた」ことを証する、日経育英奨学会理事長の推薦状を発行します。



奨学生生活をしながらの就職、たくさんのサポートがあるといっても不安や疑問はあると思います。そんな不安や疑問に、実際に奨学生生活をしながら内定を勝ち取った先輩たちが答えます。

Q 新聞奨学生の経験は就活に活かされましたか？

A 大いに活かされました。奨学生生活で身に付けた忍耐力や責任感、社会人としての心構えは大きな財産であると共に強い武器になりました。

Q 仕事と就活を両立する際、工夫したことはありますか？

A タイムマネジメントを徹底しました。社員の方々にスケジュールを早期に伝えることで休みの調整等お店の協力を得ながら内定を勝ち取ることができました。

Q 就職サポートではどのようなことを行いましたか？

A 私が参加した回では面接について、サポーターの方から内容はもちろん、表情や姿勢、話し方など細かな点までみっちり指導を頂きました。たくさん練習したからこそ、面接本番で自信を持って自分の思いを伝えることができました。

Q 奨学生をしながらでもインターンシップに参加できますか？

A インターンシップには多くの種類があります。半日や1日のインターンシップであれば十分参加可能でした。また、OB・OG訪問など配達の合間でもできることはたくさんありました。

世界最大級の経済紙「日経」をベースに 奨学生本位の制度を実現しました。

「日経」は世界最大級の経済紙、質の高い読者層を誇ります。

「日本経済新聞」は世界中が注目する経済大国、日本の経済ジャーナリズムの中心的存在です。明治9（1876）年の創刊から149年、経済の視点を主に、政治、社会、文化、生活情報にいたるまで、独自の報道姿勢を貫いてきました。

現在、新聞と電子版を合わせた購読数は約235万件。米国の「ウォールストリート・ジャーナル」や英国の「フィナンシャル・タ

イムズ」と並ぶ世界最大級の経済紙として広く知られ、朝一番に「日経」に目を通すことがビジネスパーソン必須条件といわれるほど、日本経済新聞が提供する情報には確かな信頼が寄せられています。日本経済のプレーンとして、これからも質の高い読者の期待に応え、価値ある情報を発信し続けること。それが「日経」のモットーです。

奨学生本位の姿勢から入会者は口コミで増え続けています。

家庭で新聞に目を通すことは、日本では当たり前の習慣だと考えられています。そして、宅配制度により維持されているこの習慣を支えているのが、新聞奨学生のみなさんです。

日本経済新聞社は、昭和43（1968）年に日本経済新聞育英奨学会（日経育英奨学会）を発足。「奨学生のみなさんが安心して、学業と仕事を両立させながら、かけがえのない青春の一時期を充実して過ごしてほしい」と願い、積極的に制度の改善に努めてまいりました。

どのNSNに入店しても格差を感じることなく、安心して勉強と仕事が両立できるようNSN間で同一の就業規則を制定。さらに「学費全額貸与」「集金なし」「全NSN完全個室」という日経育英奨学会ならではの充実した制度と設備を実現しています。

「日経」は奨学生本位。その姿勢を実証するように、日経育英奨学会への入会者は先輩から後輩へ口コミで増え続けています。

日経育英奨学会への入会をお待ちしています。

可能性に挑戦！ 充実した日経の奨学制度で夢を実現しよう！

日本経済新聞育英奨学会理事長

丸山 修



日本経済新聞育英奨学会は、今年で発足56年をむかえました。毎年数多くの入会申込みをいただき、おかげさまで今では東京地区で奨学生数が最も多く、女子学生もたくさん在籍しています。

私自身、日経の奨学生出身者です。大学進学を考えていたときに新聞奨学金制度を知り、日経奨学会を選び勇躍上京しました。不安もありましたが、専売所には同じ目標を持った仲間が多く、すぐに意気投合しました。私にとって新聞配達は何難い経験であり、日経奨学会を選んで良かったとつくづく思っています。

日経育英奨学会では、奨学生のみなさんが安心して学業と仕事を両立できるよう、積極的に制度の改善を進めてきました。『学費全額貸与』『4週6休制』『集金・セールス一切なし』『全NSN完全個室』『全NSNシャワールーム・シャワートイレ完備』『全室にエアコンまたはクーラー完備』など、日経奨学会ならではの充実した制度と設備を導入しています。こうした環境のもと、これまで多くの奨学生が自分の力で進学の夢を叶えてきました。

ぜひ定期的に行われるWeb制度説明会に出席し、体験入店や販売店見学制度も利用して、ご自分の目で仕事内容や生活環境を確認することをお勧めします。安心して日経奨学会に応募してください。日経奨学会が全面的にバックアップします。

将来の夢に踏み出す皆さまを 全力で後押しします

日本経済新聞育英奨学会名誉理事長
日本経済新聞社 執行役員
東京本社エリアセールスユニット長

柳原 正典



1876年に創刊した日本経済新聞は「中立公正」をモットーに、経済を中心とした質の高い情報を読者の皆さまへ日々お届けしています。新聞と電子版を合わせた購読数は約235万と、経済紙としては世界最大級であり、経済情報のリーディングメディアとして国内外より高い評価をいただいております。

日本経済新聞育英奨学会は、1968年の設立以来「勉学と仕事の両立・経済的自立」の支援を目的に、奨学生制度の拡充に努めてきました。今後も奨学生の皆さまが将来の夢に向かって力強い一歩を進めるための環境整備に力を尽くしてまいります。

勉学と仕事の両立は簡単なことではありません。入会を決意された皆さまは、親元を離れ、数多くの仲間や先輩たちと「勉学と仕事の両立・経済的自立」について考え、行動を起こし、多くの経験を積むことになります。自ら考え行動することにより、精神的自立という成長を遂げられることと思います。育英奨学生としての一つひとつの経験が、皆さまの将来の夢を実現するための大きな後押しになれば幸いです。

日本経済新聞育英奨学会はあなたが描いている「夢」への第一歩を、安心して踏み出すことができるようサポートいたします。皆さまのご入会を心からお待ちしています。

入会の手続き

日経育英奨学会の申し込みから入店まで

STEP 1

入会エントリー

奨学会 HP から

Web エントリー

が可能です！



STEP 2

制度説明会

オンラインミーティングアプリを使用し、オンラインで実施します。
実際に奨学生を預かる販売店の現役所長が奨学生のリアルをお伝えします。

STEP 3

書類審査

電子契約システム「freeサイン」を使いWeb上で必要書類の作成を行います。

STEP 4

最終面接

オンラインミーティングアプリを使用し、最終面接を行います。



通過 = 採用決定

奨学生登録

+

学費貸与
手続き

へ

入店、奨学生生活のスタート！

資格

- ①平成8年（1996年）4月2日以降、平成20年（2008年）4月1日以前に生まれた方、朝・夕刊の新聞配達と付随業務ができること。
- ②バイク（原付）免許を取得できる方。
※配達は主にバイク（原付）を使用します。入店までに免許の取得をお願いします。
注1）学校や、学部学科によって授業時間や通学時間の都合で受け付けできない場合があります。
- 注2）入学する学校が決定してからのお申し込みは、定員の関係上お断りする場合がありますので、志望校が決まり次第、すみやかに入会エントリーをお願いします。
- 注3）制度利用を辞退される場合は必ず日経育英奨学会までご連絡ください。

「freeサイン」とは？

（株）freeサインが運営する電子契約サービスです。クラウドを活用し、必要書類のやりとりをWeb上で行います。



作成書類内容

- ①日本経済新聞奨学生台帳
- ②連帯保証書
- ③健康診断結果（診断より3ヶ月以内）
- ④保証人の免許証または保険証（本人確認書類として）
- ⑤保証人の印鑑登録証明書
- ⑥進学用調査書（面接時、現役高校生のみ）
- ※その他、必要に応じ別途上記以外の書類のご提出をお願いする場合があります。
- ※現役高校生の場合、面接時の選考書類の1つとして「進学用調査書」の送付をお願いしています。

- 勉強と仕事の両立がスムーズに行えるように、3月初旬から中旬までの入店をおすすめしています。
- 入店時の片道交通費（奨学会の規定による金額）を支給します。
- 入店時にユニフォーム（ブルゾン、ポロシャツ）、レインウェア、ヘルメット（バイク区域のみ）が貸与され、身分証明書（NSNスタッフカード）が発行されます。
- 法律により、入店時にマイナンバーを配属先NSNの所長にご提示ください。

奨学生ライフ Q&A



日経育英奨学生の主な通学・実績校

